

## 「県政タウンミーティング」会議録

テーマ **「県民とともに進める『しあわせ信州』の創造」**  
日 時 平成 25 年 6 月 7 日（金） 午後 6 時から午後 7 時 30 分まで  
場 所 エコールみよた あつもりホール

### 鼎談参加者

- 長野県知事 阿部守一
- 伴 美佐子氏（上田市教育委員会 生涯学習課 青少年育成指導員）  
上田市が平成 20 年度から立ち上げた塩田地域学校支援地域本部（通称「しおだっ子応援団」）の学校支援コーディネーターとして、生徒指導などの課題を抱えていた学校と、「何か手伝いたいのに学校の敷居が高い。」と感じていた地域住民の双方の想いをしっかりと受け止め、「しおだっ子応援団」の活動を推進。  
現在は、同市生涯学習課青少年育成指導員として、「地域の教育力の向上」の普及・啓発に取り組む。
- 伊藤 学司（長野県教育委員会教育長）

### 目 次

1	知事あいさつ・「しあわせ信州創造プラン」の概要説明 .....	1
2	鼎談テーマの趣旨説明 .....	7
3	鼎談 .....	8
4	会場との意見交換 .....	19
5	知事あいさつ .....	25

## 1 知事あいさつ・「しあわせ信州創造プラン」の概要説明

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、こんばんは。今日は大変お忙しい中、そして、こういう夕方の中途半端な時間帯に県政タウンミーティング開催したにもかかわらず、大変大勢の皆様方にお集りをいただきまして、大変ありがとうございます。

私は、県政を県民の皆さんとの共同で進めようということでやらせていただいております。このタウンミーティングとか、ランチミーティングとかで、なるべく県庁の中の奥の院みたいなところに座ってはいけないということで、いろんなところに行かせていただいております。タウンミーティングは、今回で通算 31 回目になります。今日は、浅間山麓の高原の町である御代田町にお伺いをさせていただいて、御代田町、あるいは佐久地域の皆さんと教育を中心に語り合う場にしたいと思っておりますが、その前にお時間をいただき、新しい県の総合 5 か年計画であります「しあわせ信州創造プラン」の説明をさせていただきたいというふうに思っています。

後で、伴美佐子さんと、それから、伊藤教育長と 3 人で鼎談したいと思っておりますけれども、今日は伴さんには大変お忙しいところご参加いただきましてありがとうございます。そして、伊藤教育長、新しく県の教育長になってもらったわけですけれども、こういう公開の場で教育長と私がセットでこうやって出るのは今回初めてであります。私は、教育の問題について語る時は、是非教育長とか教育委員長とか、あるいは教育委員の人と私がセットの方がいいなと思っております。教育委員会だけ出てくと、それは予算が関係するから知事に聞かないと分からないという話になっちゃいますし、私だけだと、それは教育委員会の権限ですからと、逃げられますよね。皆さんからすると。教育長と私が出てれば、そういう逃げ方は絶対できないですから、今日は是非皆さんと一緒に教育について前向きな話ができればありがたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、私の方から、「しあわせ信州創造プラン」について、お話をしたいと思います。「確かな暮らしが営める美しい信州」ということで書いてある冊子をお配りしていると思います。これが「しあわせ信州創造プラン」、新しい県の総合 5 か年計画の概要版です（以下、単に概要版と記します）。本体版の普及版はまだできてないので、早く作りたと思っていますけれども、この概要版にほとんどエッセンスは書かれていますので、これでお話したいと思います。

まず、2 枚お開きいただき、計画の構成の中身が書いてあります。全体像を分かっていたくのに一番いいところです。私は、今回の「しあわせ信州創造プラン」は、もちろん県の総合計画でありますけれども、県民の皆さんと目標を共有して、県民の皆さんと一緒に実現していく、そういう計画にしたいということをいろんなところで申し上げています。当然なのですけれども、県の行政だけでできることは、正直言って限界があります。例えば今日、開かれた学校の話させていただきましても、開かれた学校、例えば、私と教育長が開かれた

学校作ろうという話をしただけでは、全くできないですよ。学校の先生方にも協力してもらわなければいけないのはもちろんですけども、開かれた学校にするには、やはり地域の皆さんが、一緒になって自分も学校の運営に関わらなければいけないと、あるいは、地域で子どもたちを支えていかなければいけないという思いを持って行動してもらわなければ、そんな開かれた学校なんて、行政だけがこんな作文しても、絶対実現しません。これは一つの例ですけども、これは福祉の分野でも環境の分野でも町づくりの分野でも、私はみんな同じだということに思っていますので、そういう意味で県民の皆さんと同じ目標を持って、一緒になって知恵を出して力を出して取り組んでいく、そういう計画にしたいと。それが、この計画の思いであります。

もちろんその前提としては、計画にどんなことが書いてあるのかという大体的なことを、県民の皆さんにある程度分かっているてもらわないといけないということで、今日もこうやって皆さんにお話させてもらっています。いろんなところに出かけて行って、今お話をさせていただいているところであります。

9 ページからプロジェクトによる施策の推進ということで、「次世代産業創出プロジェクト」からはじまって、いろんなこと書かせていただいていますけれども、今回の計画で、今までと違うところがいくつかあるのですけども、その一つが、9 ページのところに、真ん中辺から、アクション1とかアクション2とか書いていますが、これは我々、長野県がやることです。その下に吹き出しで、「県民の皆様へ」と付けさせていただいています。余計なお世話だということもあるかもしれませんが、一緒になって実現していきたいということで、今回主要な施策のところには、全部「県民の皆様へ」というのを付けさせていただきました。

例えば、「成長期待分野への展開支援」のところは、「企業の皆様には、成長期待分野での積極的な事業展開をお願いします。」と書いています。そんなのは勝手な話だということではありますけれども、でも、例えば、健康医療とか、環境エネルギーとか、県もそうした方向性をどんどん支援していきたいと思っていますが、企業の皆さんが、そんなの関係ないやというふうに思っていると、当然応援するとか支援するとかいう以前の問題ですから、ここは是非「県民の皆様へ」のところは、県民の皆さん、余計なお節介だと思われる部分もあるかもしれませんが、是非素直に受け止めていただければ大変ありがたいなど。もちろん強制するわけでもありませんし、県の政策、方向性と、県民の皆様方のベクトル合わせを少しでもしていきたいと、そういう思いであります。

今日のテーマは教育でありますけれども、20 ページから始まって、21 ページのところにアクションが並んでいます。今日のテーマの「地域に開かれた信頼される学校づくり」アクション2のところにも、「県民の皆様へ」として「保護者のもとより地域住民の皆様は、学校運営に積極的な支援をお願いします。」ということを書かせていただきました。随所にこういうことを書かせていただいていますので、皆さんにはここに書いてあること全部やってくれとは思わないです。こういうところは自分も関心があるよなど、こういうところは自分でもできるのではないかなと思ったところだけで結構ですので、是非一步踏み出していただければ、

この計画は成功だと私は思っています。県民の皆さんが、ここに書かれていること、そんなこと関係ないと、誰も行動されないような計画は失敗な計画だなというふうに思っていますので、是非「県民の皆様へ」のところは、後ほどお目通しをいただいて、一つでも二つでも、もしかしたらこれ自分がやりたいことだったと、あるいは、やれるのではないかというふうにお思いのところがあれば、ご協力いただきたいというふうに思っています。

計画の全体の中身をさっとお話をさせていただきたいと思いますが、5ページのところをご覧ください、現状認識をいろいろ書いています。私の現状認識を申し上げれば、そこにも書かれていますけれども、10年少し前までは、長野県も日本全体も人口がどんどん増えている。右肩上がりが増えている。バブルの前までは、今年より来年、来年より再来年とGDPが増えて当り前という世界がずっと続いてたわけですが、今はそんな時代ではない。人口はもう総人口減少時代になっていますし、アベノミクスで今明るい兆しが見えてきたとはいえ、また株価が上がったり下がったり、円も円高にかなりふれてきていますけれども、経済的には、必ずしも安定成長の軌道に完全にのっていない状況にある中で、今までの価値観を前提にしては明るい未来は開けないだろうというふうに思っています。もちろん大切にしなければいけない伝統文化あります。あるいは、私たちが守っていかなければいけない、次の世代に引き継がなければいけない豊かな自然環境というものもあります。だけど、例えば、国では社会保障制度の仕組みのあり方について、国民会議で議論されていますけれども、いろんな制度や仕組みが今までどおりで本当に持続可能性があるのか、あるいは、今までどおりで本当に私たちにしあわせな暮らしをもたらしていくのかということ、もう1回点検し直さないといけない時代に来ているだろうというふうに思っています。

そういう意味で、守るべきものは守りつつも、変えるべきものは大胆に変えていかなければいけないというのが私の問題意識です。そういう中で、今回の「しあわせ信州創造プラン」の目指すべき基本的な目標、6ページに「確かな暮らしが営まれる美しい信州」と書いてありますけれども、ここは是非皆さんと共有させていただきたいなと思えます。やはり経済産業の元気な社会を作らなければいけないというのはもちろんありますが、お金さえもうければいいという発想ではないんだらうと思っています。その先に安心できる確かな暮らしがある、今日よりも明日に対して夢や希望を持って生きられる、そういう暮らしを実現していかなければいけないだろうというふうに思っておりますし。美しい信州というふうに書いていますが、もちろん景観や自然環境、そうした美しさも私たちが大切しなければいけない、磨かなければいけない価値ではありますが、それだけではなくて、人と人との絆、あるいは、額に汗して働く勤勉な県民性、そうしたものも私は美しさの一つであらうというふうに思っています。そういう意味で、「確かな暮らしが営まれる美しい信州」、こうした姿を目指して、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

7ページに、目指す「未来の信州」の姿ということで、もう少しブレイクダウ

ンして、こんな県でいたい、こんな県になりたいということを5つ書かせていただいています。

「世界に貢献する信州」。これは、産業面あるいは観光面、世界の人たちのために貢献できる、あるいは、癒しの場を提供できる、そういう信州でありたいと思っています。

また、『『豊かな』ライフスタイルを実現する信州』。私たちの暮らし、例えば、都会の暮らしは一見きらびやかですけども、私からすると非常に脆弱です。いざ災害があった時に非常に弱いのは、むしろ農山村より大都市だというふうに思っていますし、人と人との関係性、隣の人は何やっている人か全く分からないようなエリアが都会にはいっぱいあります。そういう暮らしではなくて、やはり人と人との信頼関係、支え合いというものが確かに残っている社会、そういうものをもっとしっかりしていかなければいけないだろうというふうに思います。「豊かな」ライフスタイルを、是非実現できる信州でありたいと思っています。

また、「誰にでも居場所と出番がある信州」。長野県は日本一の長寿県です。これは県が頑張ったからじゃなくて、県民の皆様方一人ひとりのお陰だというふうに思っておりますので、本当に感謝申し上げたいと思いますが。長生きできるということは、これは世界から見て羨ましがられています。だけど、私たちはそれをもっと高めていきたいというふうに思っています。誰にでも出番、居場所がある。年をとっても孤独にならない。自分の社会参加の場がある。あるいは、働きたい人たち、障害者であっても、女性であっても、自分の能力を最大限生かしていける雇用の場がある、そういう長野県にしていきたいというふうに思っています。

それから、「健康長寿世界一の信州」。これは是非皆さんと一緒にさらに磨いていきたいと思っています。

もう一つ、「一人ひとりの力を引き出す教育県信州」。教育県と、長野県は今でもいろんな人から言われます。特に、長野県以外の方から言われます。県民は教育県ではないというふうに評価し、アンケート等にも出ているわけですけども、もう1回県民あげて、胸を張って「長野県は教育県だよ。」という誇りを持てる形に是非もっていききたいなというふうに思っています。

次に、8ページには、「今後5年間の政策推進の基本方針」と書いてあります。実は、今回の総合5か年計画は、先ほど言った「県民の皆様へ」などは今までと違う形にさせていただいていますし、この政策推進の基本方針というところも、これまでの県の5か年計画とは全く違う様相の部分であります。実は今までの県の5か年計画は総合計画審議会に審議していただいて、ご答申をいただいたものをほぼそのまま県の計画ですというふうにさせていただいていました。私はそこを変えさせていただきました。もちろん総合計画審議会は、いろんな分野の皆さんが入って、非常にいろんな分野をどうあるべきか議論していただいて、大きな枠組みとしては私もそれを尊重させていただいておりますし、全体の方向性は審議会のとおりであります。だけど、県民の皆さんから付託をいただいているのは私でありますから、私の意志がどこに入っているかよく分からないようなものは、

県民に対して自信を持って私は説明できないというふうに思っています。

実はこの今後5か年の政策推進の基本方針というところは、総合計画審議会の答申ではなくて、私の考えをかなり入れさせていただいた部分であります。もちろん県としてやらなければいけないことはいっぱいあるわけで、県のいろんな分野を考えれば、本当は20も30も方針を立てなければいけないところではあるのですが、結局いっぱいあればあるほど、何やっているか分からないという話になりがちだと思っています。もちろん各部長は各部長で頑張ります。建設部長は公共事業あるいは社会資本の整備をしっかりと頑張ります。健康福祉部長は医療や健康づくりや福祉をしっかりとやっていきます。そこは、各部頑張らせますけども、私は県全体を見た時に、この3つの方針で今後5年間当面やっていこうということにさせていただきました。

1つ目は、『『貢献』と『自立』の経済構造への転換』。私たちの確かな暮らしを作っていく上で、今必ずしも安定していない経済環境というものをしっかりとものにしていかなければいけないというふうに思っています。その時の視点をこの「貢献」と「自立」ということで書かせていただきました。「世界に貢献する信州」ということで、目標の1つ、将来像の1つに掲げています。

もちろん経済ですからもうけなければいけない。行政があまりもうけるとか言うところとえげつないかもしれませんが、私は企業の皆さんには是非いっぱいもうけてもらいたいというふうに思っています。だけど、自分さえよければいいということではおそらくもうからないだろうなど。いろんな製品を作るにしても、誰の役に立つのか、どういう地域の人に、あるいは、どういう国の人たちの役に立つのか、人のためになることを考えてこそ売れるものになるわけです。あるいは、長野県の主要な産業の一つの観光。観光もただ人が来てもらえばいいという話では、絶対長続きしませんし、リピーターは絶対来ないです。あそこの観光地行ったけど、こんなにみんなが力を合わせて清掃してきれいだったよねとか、こんなに旅館のおもてなしがよかったからまた是非行ってみたいとか、別にもうけるためじゃなくて来てもらう人にやはり満足してもらいたい、長野県来てよかったなと思ってもらいたい、そういう気持ちがあれば、それは次のお客様に私は確実に繋がってくるというふうに思っています。そういう意味で、経済を語る時に、やはり人への貢献、人への奉仕といった視点を持ちながら、長野県の経済全般を考えていきたいと思っています。

もう一つの自立。地域の自立って言うのは言われて久しいわけですが、国からなかなか自立しきれてない。あるいは、都会と地方比べた時に、いつも都会は元気だけど、地方は元気がないのではないかというふうに言われることがあります。私は都会と地方は違う視点で、都会はいろんな意味で弱いと思っています。むしろ、長野県のような農山村地域を本気で変えていけば、むしろ東京とか大阪よりも、もっともっと足腰の強い地域になり得るというふうに思っています。そういう意味で、地域が経済的にも自立を志向していく方向で、この経済構造の転換を図っていきたいというのが方針の1であります。

それから、方針の2「豊かさが実感できる暮らしの実現」。ここは何と言っても

健康長寿をもっとしっかり伸ばしていく。それから、雇用と社会参加の場を増やしていく。あるいは、働き方の多様性を確保していく。そして何よりも、私たち長野県が守ってきた美しい景観や自然、そして伝統文化、そうしたものを大切にしていくということを目指していきたいと思っています。

最後、方針3「『人』と『知』の基盤づくり」。今日のテーマの教育もここに入るわけですが、今人口減少です。自然減はただちにはくい止められませんけれども、合計特殊出生率、先だっの発表で長野県は1.51で、0.01ポイントだけ上がりました。もうちょっと上がらなきゃいけない。是非結婚したい皆さんには結婚していただけるように、行政が結婚のことやるのは、私は実はどうかと思っていましたけど、やはり出会いの場がない人たちにはそういう場を提供することも考えていかなきゃいけない。あるいは、2人目3人目のお子さんを持ちたいけれど、経済的にどうかなと思って躊躇されている皆さんにも、もう一步踏み出してもらえるように我々が考えなきゃいけないというふうに思っています。そういう意味で、自然減をなんとかくい止めて、そして、この御代田あるいは佐久地方っていうのは、都会から移り住みたい人が多くいる地域でもあります。そういう社会増も、是非長野県として上げていきたいというふうに思っています。

加えて、社会的な活動に参加していただける活動人口を増やしていく。人口政策というのは、かつては産めよ増やせよみたいな話があったので、行政としてはなかなかそういうこと言いづらい部分もありますけれども、とはいえ、これだけ少子化が進む中で、そして、本当に子どもを持ちたい、あるいは結婚したいと思ってもなかなかできない人たちが増えている中で、そういうところはやはり今一つ踏み出して、支援をしていくというふうに考えています。

それから、「良き人生を築き社会に貢献できる人材の育成」。ここは教育の話ですので、後の鼎談のところでまた詳しくお話をしていきたいというふうに思っています。

8ページが一番下に、「発信」と書いています。これおまけみたいなものなのですが、重要なおまけです。方針1、方針2、方針3がありますが、私は長野県で県の職員に、長野県は発信力不足だというふうにずっと言っています。いいものがいっぱいあるのに伝わってないよねと。例えば、長野県内にいいものがいっぱいあるのに、長野県は広いですから、県民も知らない。まして県外の人も知らないということも、結構山ほどあるなというふうに思っています。そうして、このいいものを発信するということだけではなくて、私たち自身が自分たちの、長野県の価値にもう1回目を向けて、そういうものを磨き直していく、そういうプロセスが実はこの総合計画を実現していく上で一つの重要なプロセスだろうというふうに思っています。また、発信をすれば反応もあります。そんなこと言っても、こんなところ弱いじゃないかと。例えば、先ほどの観光で言えば、長野県は来てみたいと思っていらっしゃる方が結構いるところでありまして、リピーターも結構多いです。だけど、例えば、観光の消費額、一人当たりの消費額は少ないです。なんでだろう。買いたい物が長野県にはないのではないかと。いや、実はあると思うのですが、発信してないのではないかと。例えば、伊

勢神宮に行ったら赤福買ってこようと、ステレオタイプのように人の頭にこびりついていますけれども。長野県にも、例えば、おそばとかおやきとかありますけれども、それだけじゃないですよ、皆さん、長野県のいいものって。だけど、そういうものが本当に発信できているかと考えた時に、私はまだまだいいものを発信しきれてないのではないかなというふうに思っています。是非この発信のところは、ブランド戦略ということで県として取り組んでいきますが、ブランドというのは単に何かキャッチフレーズを作って、それいいですかとかじゃなくて、実質も合わせて磨いていく。そして、発信していく。そういうプロセスでありたいというふうに思っています。今回この「しあわせ信州創造プラン」と合わせてですね、この「信州ブランド戦略」、キャッチフレーズとロゴマークとスローガン誕生と書いています。「しあわせ信州」という「信州ハート」と呼んでいますけれども、このグリーンを基調としたハートのマークと、それからスローガン。「掘り起こそう、足元の価値。伝えよう、信州から世界へ。」これも是非、皆さんと共有して、そして、長野県のいいものをもっと皆さんと一緒に掘り起こして、皆さんと一緒に発信をしていきたい。それをもう1回、この「しあわせ信州」のブランドに結びつけていくというプロセスをこれからとっていききたいというふうに思っていますので、この点についても皆様方のご協力をお願いしたいと思います。



駆け足で「しあわせ信州創造プラン」の説明をさせていただきました。是非今日お配りした冊子については、私はいつもですね、お時間があれば見てくださいねというふうに申し上げてきたのですが、それでは手ぬるいなと、是非必ず読んでくださいというふうにこれから言おうと思っていますので、是非これ皆さんの税金で作ったパンフレットでありますから、必ず読んでいただいて、1箇所でも2箇所でも皆さんの頭の中に留めていただければ大変ありがたいということをお願い申し上げまして、私の「しあわせ信州創造プラン」の説明とさせていただきます。よろしく願いいたします。

## 2 鼎談テーマの趣旨説明

### 【教育長 伊藤学司】

それでは、鼎談の方に入ってまいりたいと思います。この鼎談、伴さんと阿部知事、そして私の方で、3人でお話をさせていただきますが、進行の方を私の方が務めさせていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

早速でございます。今まさに知事の方からご説明ありましたが、この「しあわせ信州創造プラン」、その8ページの冒頭に書いてございますが、まさにその「県民参加と協働」を、政策を進める際の基本姿勢とする。これを大きな本県の政策を進める上での基本的な姿勢に掲げているところでございます。そして、この基本姿勢を踏まえて、具体的に教育の部分、先ほどお話ございましたように20



ページ、21 ページがこの教育に関する部分の計画でございますが、今日のテーマであるアクション2「地域に開かれた信頼される学校づくり」。ここに「県民の皆様へ」ということで、「保護者はもとより地域住民の皆様は、学校運営に積極的な支援をお願いします。」と、まさに県民と協働で子どもたちを育ていこう、こういうことをうたわせていただいているところでございます。

もちろんここはアクション1からアクション6まで、学力の問題、体力の問題、また様々な自然体験活動、そして、ICT英語コミュニケーション能力向上、こういった部分が非常に重要だということで、柱に位置付けてございますが、これらはいわば目的の部分でございますが、こうした力を子どもたちにしっかり身に付けてもらう、その上でも基本的な学校の運営姿勢、学校の運営方法として、「地域に開かれた信頼される学校づくり」が大切ではないか。そして、それは知事も冒頭申しましたが、知事や私が壇上でいくら声高に叫んでも、何も動かない部分がありまして、まさに県民の皆さんが「うーん、なるほどそうだ。俺はこれをやるう。」と。こういうような形で、力を貸していただく、立ち上がっていただかなければいけないというような課題であるというふうに思っております。今日はそういったような観点から、会場の皆様にもご参加をいただきながら、私ども3人で鼎談を進め、随所で皆様のご意見、思いもお聞かせいただければというふうに思っております。

### 3 鼎談

#### 【教育長 伊藤学司】

まず初めに、今日この鼎談の方にご参加をいただいております、先ほどご紹介をいただきましたけれども、伴さんは、上田市の方で塩田中学校等の開かれた学校づくりに大変なるご尽力をいただいたわけでございます。この取組が、先ほどもご紹介ございましたけれども、平成20年度から動き始めた取組でございます。いわば平成19年度までは、直接学校にたずさわるといってもなかったわけございまして、保護者という観点で学校を見ることはあったかと思うのですけれども、まさにその自分の力で学校を変えていこうというようなことは20年度から動き始めた部分なのですが、最初に19年度までですね、実際に自分が学校の中に入る前の学校に対する印象とか、学校はどのようなふうに映っていたのか、そんなことについて最初にお話いただけますでしょうか。

#### 【伴美佐子氏】

よろしくお願いたします。実は、私、今回このタウンミーティングにお招きいただくにあたって、非常に緊張しておりまして、不安に思うこともたくさんありました。そんな中で、県の担当の方が何度も足を運んでくださったり、お電話をくださって、お話しする中で、この問いが教育長から来るということを、実はシミュレーションできておりました。それで、ゆうべ夜なべ仕事をしまして、こ

んなものを作ってまいりました。今日多分会場に私の職場の仲間も一緒に「しおだっ子応援団」で苦勞をしていただいた方たちもいるので、また伴美佐子やっちゃまったなと思っているかもしれないのですけれども、こんなものです。

実は私平成 19 年から上田市の塩田公民館というところで勤務しておりました。青少年の育成を担当する社会教育指導員でした。その時の様子を 3Dバージョンで作ってまいりましたので、これを使ってお話させてもらいたいなというふうに思っています。ゆうべちくちくちくちくお裁縫をして作りました。

この真ん中にあるの(ハート)は子どもたちです。実は、私は地域に公民館の社会教育指導員という立場に入れていただいたのですが、地域の中では、「学校



(伴美佐子氏の作成した 3D フリップボード)

は何をしているんだ。」、そういうお声をお聞きすることが非常に多かったです。でも公民館にいますと、地域の皆さんはそれぞれに自分たちの学びを高めようと、深めようと毎日通ってきて、地域の皆さんの教育力というのはすごく昔に比べて伸びているのかな、生涯学習行き届いているのかなというふうに思いました。

それから、ご家庭の保護者の皆さんとっても高学歴になられて、それから、子育てについてもとっても興味をお持ちになっていて、自分の子どもはこんなふうに育てたい、先生たちお願いしますね、でも、学校は一体何やっているの。家庭の皆さんの教育は力をつけていて、伸びていました。

それから、学校の中も、先生方の努力というのは並大抵ではありませんでした。子どもたちと関わる時間は本当に多くて、先生たちは毎日毎日放課後も忙しそうでした。「何やっているの。何やっているんだ。」と地域から批判されるのですけど、でも、先生たちすごく頑張っていました。

でも、これをよく見てください。実は物理のベクトルなのです。それぞれに大きな力をつけて、矢印はどんどん大きく伸びているのに、みんなが違う方を向いているので、この子どもたちはにっちもさっちもいかない状態でした。私の高校時代、小さな力でも同じ方向を向いていると物体が動くよということを、物理の先生が教えてくれました。でも、力はどんどんどんどん大きくなっていても、みんなが違う方向を向いているので、実際に子どもたちは動けなくて苦しい状態でした。そんなふうに思います。

#### 【教育長 伊藤学司】

上田の地域でもそれぞれの学校、家庭、地域がそれぞれベクトルの異なる方向

に、みんな頑張っているのだけれども、ベクトルが異なる方向にあったのではないかということなのですが、ここで知事にお伺いをしたいのですが、知事はまさに県民の代表でありますし、かなり県内各地を回っていただいて県民の方との対話もしていただいておりますので、そういう意味では、教育、行政を大きな意味では所管はしていただいておりますが、むしろ県民側に立って、学校に対するいろいろな不満というかですね、批判とかそういう声もたくさん耳にされているというふうに思うのですけれども、知事がお感じになる学校の問題点とかですね、信州教育に望むことというようなことについて、少しお考えをお聞かせいただければありがたいのですが。

【長野県知事 阿部守一】

学校の課題というのは、大きな意味での教育制度の話から一人ひとりの先生の問題まで、様々あるというふうに思います。今日のテーマに関連して言えば、私は県民の皆さんと教育の話いろいろしている中で、学校は敷居が高いというか、壁があると。なかなか入りづらいとか、言っても話がしっかり通らないというようなことをよく言われることがあります。今、伴さんおっしゃった話と同じようなことを私も強く感じています。私は、あっち側こっち側はやめた方がいいと思うのですよね。今日はステージ上と客席で、あっち側こっち側になっていきますけど、もっと少ない人数でタウンミーティングをやる時は、あっち側こっち側はやめましょうねと言って対話型でやっています。要するに、あっち側こっち側、つまり知事は要望される側、皆さんは要望する側というような話し方だと、全然建設的な話にならないのですよね。先ほどから申し上げているように、私だって教育長だって、県民の皆さんにもうちょっとこうしてもらえるとありがたいと思うことがあるわけで、県民の皆さんだって、そんなこと言うなら、知事もこれやれよというお考えがあると思うのです。やはり双方向の話がなければ、前向きな話には多分なっていない。お前が悪いとかですね、あいつがやらないからだと言っているだけでは、多分世の中うまくいかない。それを私教育の分野はすごく実は感じるのです。

そういう意味であっち側こっち側やめましょうと言いながらも、私のところには、要請に来られる方が多いです。私は、現場の問題意識とか、県民の皆さんの問題を伺うのはやぶさかじゃないし、むしろ私は聞かせてもらいたいので、そういう方はウェルカムですけれども。教育について感じているのは、例えば、学校の先生たちは学校の先生たち、あるいは、PTAの人たちはPTAの人たち、それから、例えば、私立学校経営されている方は私立学校経営されている方たちの立場とかですね。本当はみんなでもう少し話せたら、私のところに来なくても前に進むのではないかと思うことも縦割りで来るのです。伴さんが、関係者がみんなベクトル違うと言うのと私は全く同じ感覚だと思うのだけれども、関係者はいっぱいいるのだけど、どうしてみんな一緒になって考えないのだろうかということ、知事になってからすごく感じているのが、実はこの教育の分野です。

【教育長 伊藤学司】

あっち側こっち側の話が出ました。今日こういう形にはなっているのですが、冒頭申し上げましたように、できる限り今日お集りの方々にも一緒に、あっちこっちではなくて、このワールドに入っていただきたいというふうに思っております。

それで、まずご協力いただきたいのですけれども、お手元の資料の中に、それぞれアンケートや次第という形で赤と緑の紙が入っているかと思えます。様々な立場の方、本当にあっちこっちなしにやりたいのですが、そうは言っても仕事で今学校に関わっている人たちも今日かなりご参加をいただいているのではないかとこのように思っておりますので、最初にまず、今日どんな方がご参加いただいているかということで、学校の校長先生、教員、また教育委員会の人とかですね、仕事で学校に自分はよく行っているよという方は緑、そうではないという方はこの赤を挙げていただきたいのですが、お願いいたします。大変恐縮ですが、赤の方はそのまま挙げ続けていただけますでしょうか。緑の方は一旦下ろしていただければというふうに思えます。それでは、今赤で挙げていただいている方の中で、知事の方から、学校の敷居が高いという話でしたが、私は意外と学校へ行っているよという方はそのまま挙げていただいて、いやもうほとんど学校には最近行ってないなというような方は下ろしていただけますでしょうか。やはり大分下りましたね。今挙げていただいている方で、ちょうど自分が地元の、自分のお子さんとかお孫さんが小中学校に通っているのです、その子どもの用の関係で学校に行っているよという方は下ろしていただけますか。なんと、残るのは3人ぐらいですかね。これが多くの今の長野県内の学校と地域の方の関係を如実に言い表す数字になってきたのかなという思いはいたします。

先ほどの話でも、伴さんも仕事柄学校に関係することはあったけれども、やはり伴さんの地域でも学校と家庭、地域というのはばらばらの方を向いていたということなのですが、そこで、平成20年から学校支援コーディネーターということで、むしろ地域の方が学校の中に入っていくという取組を始めていただいたわけがございます。ただ、なかなかイメージしにくいと思うのですね。そのコーディネーターって何やるのと。そういうことで、伴さんが学校支援コーディネーターとして学校に入ってどんなことをやっているのかっていうのを、ご紹介いただけますか。

【伴美佐子氏】

コーディネーターと申しましても、本業は公民館の職員でした。当時上田市で「しおだっ子応援団」を立ち上げようと、モデル的に文部科学省の委託事業で学校支援地域本部という事業がありまして、それを塩田地域で導入した時に、たまたま塩田の公民館に職員でおりまして、コーディネーターを務めるようにというふうに仰せつかりました。学校支援地域本部の事業というのは、伊藤教育長が文部科学省にいらした時にまさに中央で考えられた取組で、学校の要望についてコーディネーターという人間がそれをお聞きして、その要望について応えられる地

域人材を地域に求めて、それを学校にお送りするというような立場でしょうか。

【教育長 伊藤学司】

なるほど。それで、具体的に学校の中に入ってですね、いろんな要望を聞いて地域の方につなぐという役割をされたと思うのですけれども。敷居の高い学校、あと先生方はプロ意識が高いので、そんな地域の人の方なんて借りなくても自分たちでやるからみたいな意識も強い学校もあるかと思うのですが、塩田中学校では、その辺はどうでしたか。

【伴美佐子氏】

そうですね。塩田中学校、その当時、先ほど申し上げましたように地域も家庭も学校もそれぞれの方を向いていて、子どもたちがとても寂しい状況、自信を持ってない状況だったというふうにお話したのですが、そういう子どもたちの気持ちが形に出てしまうことがあったのです。それは、近くの駅に落ちている吸い殻であったり、時には2時間目と3時間目の休み時間の間に缶チューハイで酒盛りをしたなんていう話もありましてね。本当にそういう子どもたちの寂しい心の表れが、地域の心をまたますます遠ざけていってしまうのです。学校は何しているのだということになってしまうのですけれども、でも、先生方はすごく努力していらして、そういう子どもたちのことも大切にしたいけど、忙しくてその子たちに関わっていると他の多くの子どもたちに関わる時間がない。そういうような状況で、そこをなんとか地域の皆さんと一緒にできないだろうか、当初はそこから始まりました。

【教育長 伊藤学司】

具体的にどんな取組をしているかというのは、なかなか言葉でお話いただいても分りにくい面もあるかと思しますので、スライドが用意されているというふうに伺っておりますので、スライドを見させていただきながらですね、実際に塩田中学校では地域の方々が入ってこんなことをしたのだというのをご説明いただければありがたいです。

(スライドには、学校の様々な様子が納められておりましたが、生徒のプライバシー等に配慮して、会議録には写真の掲載をいたしません。)

【伴美佐子氏】

BGMの曲は中島みゆきさんの「糸」という曲なのですが、まさに「しおだっ子応援団」の取組をさせていただいて、この歌詞がぴったりだなというふうに思っています。当時平成19年から校舎の改築の時期も迎えていまして、子どもたちとても大変な状況だった上に、更に改築の工事ということで、当初問題を抱えた子どもたちが廊下をうろうろするようなことも多くて、その子どもたちに冬場の居場所を作ってあげたいということで、空き教室を職員の皆さんと地域の皆さんと保護者の皆さんで作って、それから、地域のボランティアの皆さんがこ

んな形で授業支援をしていただいています。教員OBの方もいらっしゃるし、児童相談所の所長さんをなさったなんていう方もいらっしゃるのですけれども、ある方は元々小学校の音楽の先生で、音楽のパート練習で、口はこうやって縦に開けるんだよとか言いながら参加してくださいました。それからもう一つ、地域の皆さんが環境整備にお手伝いをいただくこともあって、これは校舎の前にある芝生のロータリーの草取りをしていただいているところです。それから、これはポット植えの作業ですね。子どもたち、生徒会のグリーン化委員の皆さんとこんなふうと一緒に作業をすることもあります。平成20年に一番最初に子どもたちと仲良くなりたくて、一緒に何かできるといいねと言って、植栽の教室をしました。その時の子どもたちの様子です。今もう彼らも20歳になるのかな。そして、地域の皆さんに助けてもらった花壇は美しい花を咲かせました。それから、子どもたちの職場体験でワインの醸造用のぶどうの木の皮むきをしました。総合的な学習の時間に地域を回ることがありまして、その時に地域の皆さんがボランティアでガイドをしてくださって、子どもたちは班ごとに好きなどころに行きますので、道中の見守りとそれから地域の皆さん、茶道の体験、お抹茶教室なんていうのもさせていただいて、初めて抹茶をたしなむなんていう子どもたちも大勢いました。

校舎の改築も進んでまいりました平成21年22年くらいでしょうか。工事中の校舎に生徒諸君が入らせていただいて、それで工事の現場の皆さんのお声をお聞きして番組を作ったり、そんなこともしてまいりました。

地域の皆さんと一緒に、「春風すみれ倶楽部」という交流イベントを毎年毎年行いました。素焼きの鉢にデコレーションをしたりしました。

それから、一昨年は、刀鍛冶の宮入小左衛門行平さんにお越しいただいて、五寸釘を打って、打って、打って、ペーパーナイフを作るなんていう交流会をしました。

また、消防ラップで文化祭のオープニングファンファーレを飾ろうということで、子どもたちが毎朝7時から、15分か20分だったと思いますけれども秘密特訓をして、文化祭には消防の皆さんと一緒にファンファーレで飾りました。

それから、これは地域の皆さんと一緒に、独鈷山という塩田には山があるんですけれども、地域の皆さんにも参加していただいて、子どもたちは、とても里山としては険しい山なのですけれども登りました。

別所温泉では、安楽寺さんという、国宝の八角三重塔の屋根の葺き替え作業に全校生徒が関わらせていただいて、屋根に葺き替えるこけら板に子どもたちが夢を書いて納めさせていただきました。子どもたちの夢を納めたタイムカプセルは、国宝ということになるでしょうか。

こんな形で子どもたちと一緒に地域の皆さんと取組を進めてまいりました。

#### 【教育長 伊藤学司】

大変すばらしい取組が、この4年間、5年間の中に展開をされてきているというふうに思います。知事、今のスライドをご覧ください、感想があればお願い

したいのですが。

**【長野県知事 阿部守一】**

そうですね。私も県政を、県民参加と協働ということでやっているわけですが、学校も県民参加と協働なのだろうなと思うのですけれども。

たぶん今、スライドで見たああいう仕組みが根付くまでにはいろいろ大変なこともあったのではないかと思いますけど、そこら辺はどうだったのですか。

**【伴美佐子氏】**

私なんかよりも、今日は本当に一番この事業で苦勞をしてくれた人が客席に、会場に来ているのです。その方にお話をお聞きになった方がいいんじゃないかと思うのですけれども、いいですか。

**【教育長 伊藤学司】**

では、ご指名をいただければと思います。

**【伴美佐子氏】**

加瀬先生。ただでは座らせておきませぬ。

塩田中学校の当時の教頭先生です。本当に同志として一緒にやらせていただきました。すばらしい教頭先生です。

**【加瀬浩明前教頭】**

皆さん、こんばんは。まさかこんなことになるとは。来るのではなかったなと後悔をしております。

私、平成 21 年度に塩田中学校の方に参りまして、ちょうど平成 20 年度から始まった事業、皆さんにお集まりいただいたのは平成 21 年の 2 月ぐらいでありましたので、平成 20 年中の準備は本当に数ヶ月で、いよいよ 21 年からスタートというところでお世話になりました。

先ほど伴さんの方から話がありましたけれども、花壇なんかもとってもきれいに写っていましたが、当時はあの中を自転車がよく走っておりました。それから、植えられた花もよく抜かれてしまうというようなことがたくさんありました。

ところが、地域の方に入っていて、本当に暑い中でも作業をしていただいている状況を子どもたちが見て、あの事業が始まってから花壇の中に自転車が走るなんてことはありません。花が抜かれるなんていうこともありません。そういったことでまず本当にびっくりしたなというふうに思いました。

いろいろ大変なことはありましたけれども、地域の方が本当に真剣に学校に入って取り組んでいただいて、先生方も保護者の皆さんも子どもたちもどんどん変わっていく。一番変わったのは、もしかしたら地域の皆さんかもしれない。今まで毎日のように苦情の電話があったのですが、徐々に徐々にそういったものが減って、要は、学校に入っていていただく地域の方が、地域で「今、こうい

うことをやっているんだよ。」ということをとくさん話してくれるのですね。そういう発信が、徐々に徐々に変わっていき、みんな自信をつけていったのではないかなというふうに私は思っています。

**【教育長 伊藤学司】**

ありがとうございます。まさに今、そういうお話がございました。

一般的に「地域に学校を開こう。」と言うと、比較的、学校の方もなかなか閉ざしてしまう部分があって、「そんな地域の人の手相手をしていたら、ますますこの忙しいのに大変だ。」とか、「いろんなことを、これもやれ、あれもやれと言われても、とてもじゃないけど対応できない。」ということで、学校の先生方も実は最初はなかなか開かない。忙しくなってしまうからというような感じもあるのですが、塩田中学校ではそのあたりは抵抗感というか、そういったものはいかがでございましたか。

**【伴美佐子氏】**

まさに塩田中学校で、最初に地域ボランティアとして入っていただいたのは、実は教員OBの皆さんなのです。学習支援ということで、教員を退職なさった方が学校に入ってくる、そういう皆さんが現場に戻ってくるということで、おそらく現場の先生方は戦々恐々としていらしたのではないかと思います。それが、正直なところだと思います。ただ、ボランティアで入ってくださった皆さんの、本当に地道な黒子に徹した支援が徐々に先生方の心を溶かしていったのではないかなというふうに私は傍から見ていて感じました。

**【教育長 伊藤学司】**

ありがとうございます。大変重要な部分でございます。地域の方々にもご協力をいただくという形で言えば、それは地域の方々も大変になるわけです。けれども、一定の成果が出る。つまり子どもたちがだんだん良くなる、笑顔を取り戻してきた、こんなような形が見えてくると、地域の方々は「じゃあ協力しようよ。」というような気持ちにもなってくるかと思うのですが、そうは言っても学校の先生方は忙しいなかで、手一杯。でも、少しずつ徐々に心のその壁を溶かしていったという話があったのですが、すでに4年、5年経っておりますと、その最初のときの熱い気持ちと、今、定着した後の状況というのは、またいろいろステージが変わってきているのではないかと思うのですが、今の塩田中の先生方というのは今の状態について、どんなふうな感想を持たれているのですかね。

**【伴美佐子氏】**

地域の方が、学校のなかに存在していることが普通に、日常になっているのかなというふうに思います。

そして、実は私、取組を進めていくなかで思ったのですけれども、地域の皆さんと先生方が笑顔であいさつを交わせるようになって、本物の笑顔ですよ、作り



笑顔じゃなくて。本物の笑顔であいさつが交わせるようになって、それから子どもたちがぐんぐん変わりました。何を申し上げたいかというと、大人たちの後ろ姿を見て、子どもたちが安心したというか、この人たちがここに存在することが確かにいいことだっていうのを子どもたちが感じてからは、ぐんぐん変わってきたように思います。

【教育長 伊藤学司】

ありがとうございます。実は今ので、もう答えになってしまっているのかもしれないのですが。逆に地域の方々も、一回だけのボランティアぐらいなら「まあ協力してやってもいいかな。」というふうに思いますけれども、定期的に入ってもらいたいとか、先ほどの花壇なんか、けっこう肉体労働で大変ですよ。そういうようなものをずっと続けてくださいというような形になってくると、「そんなものは給料をもらっている公務員たる教員がやりゃいいんだろ。」とか、「何で俺らがそんな大変なことを続けなきゃいけないんだ。」というような声は出ませんか。

【伴美佐子氏】

まさに、教育長、見ていらしたようですね。

1年は何とかかんとかボランティアさんたちも大変な作業を乗り越えてくださいました。年間に約千名近いボランティアさんが学校に出入りをしていましたけれども、最初の1年は何とか頑張っちゃったのですが、でもやはり、「無料のシルバー人材センターではないよ。」っていうようなささやきが聞こえるようになって、一度、翌年のボランティアさんの数は、がくっと半減したことがあります。

何がいけなかったのかなって、すごくコーディネーターとして反省しました。

そしたら、よく考えたら、ボランティアさんにとっての喜びの部分私が満たして差し上げることができなかったかなっていうふうに思います。それは子どもたちと一緒にする作業を増やすことであったりとか、ボランティアさんたちが学ぶ機会をきちんと作って差し上げることであったりとか、ボランティアさんたちの仲間作りのお手伝いをして差し上げることだったりとか、そういうものが私には足りなかったと思います。

【教育長 伊藤学司】

ありがとうございます。ここでまた知事に感想も含めてお聞かせをいただきたいのですが、県民協働という形になると当然、協働していただきたいのですが、そのあらゆる場面で県民からすれば、それは従来の意識からすれば、「役所がしっかりやるべきことなのではないのか。」とか、「我々は税金を払っているのだから、それは役所がして当然である。」というような面、意識ってやはりあると思うのですが、でもなぜ県民協働なのかというところをこの一丁目一番地に持ってきているのかということ、教育だけではなくて結構なのですが、お聞かせをいただければと思うのですが。

【長野県知事 阿部守一】

そうですね。これは県民との協働ってというのは、まず一つは、私の協働ってというのは、単純なボランティアということだけではなくて、企業との協働でも全部あり得ると思っていますので、そういう意味ではボランティアの、例えばよくありがちな「行政が NPO に委託します。」とかいう「安上がりにやれます。」みたいなことの議論になっちゃうことがあるのですけれども、そういう発想はまったくくないですね。むしろ、できる人ができることをやっていくというのが当然の社会だと私は思っています。だけどそれが先ほど言ったように、あっち側こっち側で、孤立していればいくらみんな良いことをやりたいと思っても、全然効果が出ない。

もちろん行政は、県民の皆さんの付託を受けて皆さんから税金をいただいて仕事をしているわけですから、当然そこが核になってやらなければいけない仕事は多いというふうに思っていますけど、だけど冒頭に言ったように、そうは言っても行政だけでできることは限界があるというふうに思っています。

最初に私がそういうふう感じたのは、昔、福祉の課長を神奈川県庁でやっていたことがあるのです。そのときに私、ボランティアとかそういう担当をやっていたのですが、一生懸命ああだこうだと考えて、でも「じゃあ、お年寄りのニーズって何だ。」というふうに突き詰めて。もちろん年金のとか、そういう話もあるのですよ。だけど孤独なお年寄りは、話し相手になってくれる人が欲しい。そういう願いもあるわけですね。じゃあ、税金でもらっている公務員が話し相手に行きましょうと。それはもしかしたら喜ばれるかもしれないけど、私はそんな社会は不健全だと思うのです。

やはりできる人、本当に身近な人、本当に心を持ってやってくれる人たちが、いないわけじゃなくて、いるわけですから、行政がやらなければいけないことは、むしろそういう人たちを見つけて、そういう人たちを繋げる。

全部、一から十まで行政がやることは私は良いことではないと、実は思っています。それは、決して行政が逃げるつもりはなくて、むしろ本当に行政がやらなければいけないことに集中しないと、本当に社会全体は良くなっていかないのではないかなと思っています。そういう意味で、私は県民参加と協働、県にはいろんな分野がありますけども、是非県民の皆さんに力を貸していただくところは、私はどんどん力を発揮していただいて協力してもらいたいと思っています。

もちろんその反面、関わっていただければ関わっていただくほど、多分、行政に対して意見も出てくると思っています。それは我々は正面からしっかり受け止めさせていたいただきたいと思っていますので、そういう対等協力の関係を是非、県民と県の組織も持っていききたいなというふうに思っています。

教育の話で、学校の先生方と話をする、必ず出るのが「学校の先生は大変だ。」とか、「忙しい。」とか、「子どもに向き合う時間がない。」とかいうことも必ず出てくる話で、私が学校の先生の多忙感を生じさせている原因が、いろんな調査等にあるとすれば、そこは教育委員会に直してもらいたいなと思っていますし、もう一つ私は、私はいろんなところで「自分がもし学校の先生だったらこうだよな。」

という話をさせていただいているのは、ここの、例えば皆さんにお配りしたこの「教育の再生プロジェクト」のところでも、いっぱい書いていますよね。学力向上だ、体力向上だ、農作業体験、あるいは英語コミュニケーション能力の向上だと、情報能力を身につけさせなきゃと。それに加えて修学旅行も連れて行かなきゃ、部活もやらなきゃと。

私はたぶん自分が先生だったら、そんなことをいっぱいできないのではないかなと実は思っています。むしろ先ほどの、私は行政のことでできる人に協力してもらいたいと申し上げましたけど、本当は学校もできる人が、もっとコーディネイトする人が、しっかり伴さんのような方がいて、みんなで花壇の清掃、花壇に花を植える。あるいはどこか近くに子どもたちを連れて行って地域のことを勉強させる。この人にやってもらったら、子どもたちにとってもっと良い効果があるのではないかという人が、必ず地域にはいらっしゃると思うのですよね。そういう人たちの力をもっと学校に貸していただいて、先生は、本来先生でなければやれない仕事っていうのは確実にありますよね。ボランティアや地域の人たちにはとてもできない仕事というのがあるわけですから、そこに私はむしろ学校の先生の力は集中してもらえそうな環境を、これは地域だけじゃなくて、我々行政も一緒になって考えて作っていく。それは決して学校の先生のためじゃなくて、中心でいるべき。先ほどハートマークがありましたけど、子どもたちのために誰が何をするのが一番良いのかということ、真剣になって、一緒になって考えていく必要があるのではないかなというふうに思っています。

#### 【教育長 伊藤学司】

先ほどの加瀬さんのお話で言うと、生徒指導が劇的に改善をされて、それによっておそらく生徒指導にかかる時間も相当、逆に言うと短縮できたのではないかと思います。同時に地域の方々からの苦情がものすごく減った。苦情に対応する時間というのも実は相当とられていて、その分、逆に生徒の方に向き合うことができなかつた部分が一気に改善をされたというような効果ももたらされたからこそ、学校では永続的にこの活動が続いてきたのではないかなと思います。もう一つ、先ほど伴さんの方から大変すばらしいお話をいただきました。

参加するの方々にとっての喜びであったり、絆づくりであったり。つまり学校が一方的に奉仕をしてもらって、学校の下請けを地域の方にやらすのではなくて、地域の方々がまさに生きがいを持ってそこに主体的に参画をいただくということで、実は総合計画の方に戻りますと、先ほどのパンフレットの7ページの上の方にいくつか「私たちがめざす『未来の信州』の姿」ということがあるわけですが、今、教育の話をしているので、一番右の箱になるのですが、真ん中のところに「誰にでも居場所と出番がある信州」、ここで「一人ひとりの自己実現」とか「認め合い支え合う社会」、そして更にそこから「生涯にわたる健康づくり」や「生きがい」を生み出していく。これがまた逆に言うと「一人ひとりの力を引き出す信州教育」にも返っていく。

こんなようなモデルが上田の塩田の地域では生まれてきているのだなというふ

うな感じがいたしました。やはり参加した方がすごく充実感を持っているというのが大変重要だと思うのですが、そのためにもやはり目に見える成果というか、先ほどの、まさにベクトルの真ん中の子どもたちがどう変わってきたかというような様子について、もう少し伴さんの方からお話をいただければありがたいのですが。

#### 【伴美佐子氏】

もともと塩田の子どもたちは、伸び伸びしているのですね。元気にあいさつができて。ではあったのですけれども、地域の皆さんの心が離れている頃は、自信がなさそうでした。何をするのにやはり自信がない感じがしました。

それがつい先日、開校 55 周年を迎えまして、その式典に久しぶりに私は塩田中学校に行かせてもらったのですけれども、更に伸び伸びと本当に屈託なく笑うようになりました。部活動等にも本当に一生懸命向き合うようになりましたし。

数字でどういうふうに変わったとかそういうことは私には分かりませんが、近くにスーパーがあるので、スーパーで元気にあいさつしてくれる中学生、本当に恥ずかしい盛りの子どもたちだと思うのですけれども、元気にあいさつしてくれる子どもたちがいてくれたり、それから学校の近くに公民館があるので、公民館に「ただいま。」と帰ってくる子どもたちが増えたり。そういうことは変わってきたなというふうに感じました。

## 4 会場との意見交換

#### 【教育長 伊藤学司】

まだまだ様々なお話を伺いたいところなのですけれども、徐々に時間が迫ってまいりました。

会場の方々に、今のお話、もしくは県の考え方、知事の考え方等を聞きながら、「これまではあまり学校に関わってこなかったけれども、ちょっと地域の学校に関わってみようかな。」とか、また教育関係者の方々に、「少し地域の方々に関わってもらおうような仕組みを働きかけてみようかな。」というようなお気持ちになった方、別に無理に挙げなくて結構でございます。正直なところで結構ですけれども、この赤のチラシを挙げていただければと思いますが、いかがでございましょうか。

ありがとうございます。大分サービスもあるかもしれませんが、本当に多くの手が上がった。しかしまだ半分ぐらいですかね。もちろん、これ全員に関わっていただかなければいけないということではございませんし、それぞれの皆様の居場所と出番というものは大いにあるわけですので、それが必ずしも学校を支えるということではなくても当然結構なわけですが、せっかく今たくさん手を挙げていただきましたので、今日のこの鼎談を聞いて、自分はこう思うとかですね、ご感想なり、ご意見なり、ご提言なり、是非会場の方からあれば一つ、二ついただきたいのですけれども。よろしければ挙手をお願いい

たします。いかがでございましょうか。

【発言者】

この会ですね、すごく期待してここで見させてもらいました。

今日、いい話をたくさんしていただいたのですけれど。僕は今、子どもが学校に行っているのですけれど、僕の息子、子どもが行っている学校は、こんなに素晴らしい学校ではないのです。今日、素晴らしいというご報告があったのは分かるのですけれど、非常に残念な学校だと、私の気持ちというか、私的な意見なのですからと思うのです。

知事もそうですし、そこの壇上にいらっしゃる県の偉い人に聞いていただきたいのですが、学校の先生、特に今日は、そういう議題ですので、先生たちですばらしい先生もたくさん知っております。すごく一生懸命やっていただいて、本当にすごく涙が出るほど嬉しいこともたくさんありました。なのに、そうでない先生もたくさんいらっしゃいます。そこで、教育長も知事も、もともとこの県の行政の方ではないというふうに存じているのですけれど、この学校の先生たち、県の職員の皆さんもそうなのですが、に対してどういうふうに先生たる教育というか、研修というのかな、をしているかということをお、ちょっと意見させていただきたいなと思ったのです。

というのは、大学とかを出て、採用試験を受けて、その後、採用の通知が来れば、学校の先生ということのルートだと思うのですけれど、その人たちが素晴らしい倫理観を持っているか、道徳観を持っているかというフィルターはどこにあるのでしょうかということになってしまうのですよ。

それは、今日ここに来ている皆さんが、この話題が出たら絶対困ると思っと思うのですが、ここ1年間で教職員の不祥事ってたくさんあったと思うのです。ですから僕はそれが起こってしまったことをとやかく言うつもりはないのです。先生だって人間ですから、過ちもあれば、うまくいかないこともあることは分ります。ですが、例えばわいせつ事件とかの場合って、間違っただかではなくて、やはりそこには倫理とか、道徳をその個人が持っていたかということだと思っと思うのです。事件を起こした先生や職員を糾弾するのではなくて、なぜそういう事件が起こる前にその起こしてしまった人の倫理や道徳というものを汲み取れなかったのかなというふうに非常に思っ思うのです。

大変申し訳ない言い方なのですが、僕は大都市に住んでいる者ではないので、今、上田のお話もしていただいたのですけれど、街場の学校というのは確かに素晴らしい先生もたくさんいて、素晴らしい授業もたくさんあってっというご報告も分かるのですが、田舎の学校は先生の数も少なく、素晴らしい先生も少なく、そう格好良く言うほどうまくいっっていないと思っ思うのです。

ついこの間も、僕の子どもはちょっと障害があっってですね、軽い障害があっって学校に何度も行けなきゃいけないことがあったのです。そうしたら、すごいミクロなお話で恥ずかしいのですけれど、そうしたら、受付の女性の方が、学校の職員の方が私に向かって「え、何の用？ちょっと待ってて。」と言っ言うのです。僕

は「僕はあなたと友達でもなければ、知り合いでもないのですけど。」と心の中で思ったのです。それをその後に行ったときに校長先生に申し上げました。

つまり、「学校の先生たちは生徒に向かって『あいさつをしろ』とか『素行を良くしろ』とか言っているわりには、学校にいる先生たちは言葉の使い方すら知らない。」と校長先生に申し上げました。そんなことを今更言われるお話ではないと僕は思うのです。人間として。

ですから、今日いい話をしていただいたのは、僕はすばらしいとは思いますが、もっとそうでない陰の部分をもっと見ていただきたいと思うのです。

学校に関わっていないというお話もありましたが、実は昨今、僕は子どもが障害があるもので、なのに子どもの友達が、すごく誘ってくれて運動部に入ったのです。運動なんて一切できないのに。それで続けてきました。子どもたちはすばらしい子どもたちでした。なのに、来た先生は、新任の先生なのですが、まったくやる気がありません。部活で子どもたちがのろのろのろ移動していても何にも言いません。あいさつしなくても何にも言いません。別の部員が失敗したら、文句を言ったり悪口を言っています。その先生は、一緒になってその失敗した子どもの悪口を言っていました。そういう非常に残念な事件がありました。

#### 【長野県知事 阿部守一】

大変貴重なご意見をいただいてありがとうございます。今日、「開かれた学校づくり」の話をさせていただいて、今お話あった、非常に不祥事、相次いでいますね、これは教育長も私も、そういう問題に決して目を背けているわけではありません。むしろそこに正面から向き合わなければいけないという問題意識を持っています。

今日は伴さんの発表を中心にさせていただいたので、少しご指摘あったのと違う雰囲気になってしまったかもしれませんが、実は昨年「教員の資質向上・教育制度あり方検討会議」とやってきたのです。今ご指摘があったように、これは多くの真面目な先生方、あるいは我々としては「またこんなことが起きているのか。」ということは正直、とてつもなく残念でありますし、これをどう変えていくかということが一番の課題だと思っています。

今、また教育長から詳しく話、説明してもらえればと思いますけども、例えば教員の評価、今まではみんな同じような評価です。今、ご指摘あったように、ろくすっぽあいさつできない人間も、一生懸命額に汗して頑張っている先生もみんな同じ評価。ほとんどですね。これは、私はいかなものかと正直思っています。

今回の検討会議のなかでは、例えば今は普通の組織は上司が部下を評価するという形ですけども、先生のことを実は一番見て分かっているのは子どもたちであり、あるいは今ご発言いただいた方のように、保護者の方が一番分かっていると思います。そういう方の視点をもっと入れる必要があるのではないかというふうな提言もいただいています。私はこれは是非実現をさせていかなければいけないことだと思っています。

まず、不祥事が相次いでいるということに対しては、これは私としては県民の皆様方には大変申し訳ないことだと思っておりますし、お詫びを申し上げなきゃいけないと思いますが、それだけではなくて、人事とか採用のこと、研修、更には評価、そういうことを全体的に本当に子どもたちの目線に立って、あるいは保護者の皆さんの思いを受けて変えていかなければいけないというのが、我々の今の取組です。

「あり方検討会議」の提言を受けて、方針を今、作っているところでありますから、そのフォローアップも今までの行政って、今回の新しい「しあわせ信州創造プラン」もそうですけども、「行政は何か計画作りっぱなし。」と、「何か実行しているのだからどうか分からない。」という批判を私は県民からよく受けますし、私も今までの行政を見ていて、すごくそう思っています。私は、決してそんなことにするつもりはありません。出されたものをしっかりと形にしていくことが私であり、教育委員会、教育長の仕事だというふうに思っていますので、少し今の状況を伊藤さんの方から触れてもらえればと思いますので。

#### 【教育長 伊藤学司】

まさにご指摘をいただいた点は大きな教育の課題でございます。

県民と協働と言う前に、そここのところをしっかりと取り組まなければいけないというような課題であり、それは今私どもでやっております。知事からもお話いただきましたように、人事、採用、評価、どういう人を採用しているのか、どういうふうな研修をしているのか、そして常日頃その人たちがどういう形で評価をされて、その評価結果を踏まえて、切磋琢磨して自分がより良い教員になっていくのか、こういうスキームになっているのかどうかというような観点について、かなり広範なご提言を実は有識者の方にいただいて、今それを、すぐできることは今年度からすぐやろう、少し準備をしなければいけないところについては今年度に準備をして来年度から行っていこうというような形で具体的に進めております。

そのなかで今、知事の方から申しました教員の評価のあり方っていうのも、もっともっと子どもたち、そして保護者の方々、更には地域の方々からもどういふふうに映っているのか、こういう声もしっかり校長が聞いた上で、その教員の評価、教員がレベルアップする上での評価につなげていく。こういうことが大事ではないかというふうな形で今、進めてございます。

実は、今日テーマにした「開かれた学校づくり」というのも、まったく関係がない話ではございません。今たまたまお父さん、そのお子さんのことで学校に行かれてそういう教員の姿を目にした。でももう一方で自分のお子さんが学校に通っているとなかなか言いにくいこともあって、言えないなと思う保護者の方々もいっぱいいるかと思っておりますし、同時に何か問題がなければなかなか学校って行かないという形であれば、日常の学校でどんな活動が行われているのか、先生がどんなふうに対応をしているのかというのを見る機会は少ないというふうに思いますけれども。先ほどのまさに「開かれた学校づくり」でボランティアのような形

で、毎日誰かしら地域の方々が入ってくる、まさに日常に溶け込んでくるという形になれば、先生方、子どもとだけ対峙しているときというのは、子どもしかいないという、それは油断しているわけではないけれども、やはり人間の心理として、今いるのは自分が教えている対象の子どもだけだというときと、自分に利害関係なく、びしっと厳しいことを言うかもしれない地域の方々がいっぱいいるときというのは、これはもう人間の心理の問題として変わってくるのではないかと私は思っております。

そういう意味では地域の方々をもっともっと日常に入って、本当に今のような厳しい「あいさつもできないのか、あいつは。」と、「お前は。」というようなことを言っていた。まさに辛口の友人という言葉がありますけれども、こういう方々に、地域の方にどんどん厳しいことも言っていた。その声が他の先生方、また校長、教頭さんも含めてですね、学校の方で十分でないところがあれば、どんどん言っていた。そういうのが、一つの「開かれた学校づくり」の効果でもあるのではないかなというふうな思いをしております。

今いただきました意見も踏まえて、私も全力を挙げてしっかり取り組んでまいりたいというふうに思っております。

大変恐縮でございます。ごめんなさい。時間が予定した時間になってまいりました。最後に 30 秒ずつ、それぞれ一言ずつ、伴さん、そして知事の方からお言葉をちょうだいできればと思うのですが、お願いいたします。

#### 【伴美佐子氏】

私は、知事でも教育長でもない本当に地域のおばちゃんです。ちょっと立ち位置が違います。

私は「しおだっ子応援団」の関わりのなかで、学校の先生方や、地域の皆さん、子どもたちと関わってまいりましたけれども、実はその関わりの数年間のなかに「評価」や「批判」はありませんでした。「寄り添い」しかありませんでした。地域の皆さんは子どもたちのために自分の時間を使って、子どもたちと過ごす時間を作ってくださいました。学校の先生方はそれを受け入れる地盤を作ってくれました。

難しいことはよく分らないのですが、イソップ物語の北風と太陽みたいに、ヒューヒュー吹きすさぶような「評価」とか「管理」とか、そういったものではなかった気がします。暖かく降り注ぐような太陽のような「寄り添い」が塩田中学校にはあったかなというふうに思います。学校が変わってきたのもそれのお陰なんじゃないかなと思っております。

先ほども申し上げましたように、子どもたちは大人のすることをしっかり見ています。

私は未来の子どもたちには、人と助け合って、未来を思って生きていく人になってほしいなと願っています。一人の母親としてそういうふうに願っています。ですから子どもたちの前では、他の人と手を携えて協力して分かち合っていて進んでいる姿を見せたいなというふうに思っています。



うまく言えないですけれども、コートを脱がせるのは誰なのでしょう。

【長野県知事 阿部守一】

今日は、時間が短かったかもしれませんが、教育のなかでも一部だけという話で少し欲求不満の方もいらっしゃるかもしれませんが、もっとこういう議論をみんなでする場を作っていかなきゃいけないなというふうに思います。

先ほど教育長が言ったようにこの「開かれた学校」というのは、単に地域の人が入ってそれでよしよしという話では私もないと思っています。むしろいろんな人が関わり合うなかで、子どもたちも先生も地域の人たちも、それぞれ気づきを得られるというのは伴さんのおっしゃったことだと私は思いますし、それは地域にとっても学校にとっても良い相乗効果が生まれるのが「開かれた学校」だというふうに思っています。

私は教育の問題についてはいろいろな視点があるのですが、私はもう少し大きな話で申し上げれば、今までの日本の教育ってというのは、枠にはめる教育だったのではないかと思います。これは戦後みんなが経済的な豊かさを目指して、みんな働き蜂になってやろうぜというときには、A君もB君もC君もみんな同じことを勉強して、みんな同じような行動ができて、それが社会全体にとって望ましい時代は、みんなが同じことを覚えて、同じような行動をしてというのが、社会全体にとって望ましい教育だったと思うのです。けれど、私は、先ほど言ったように大分社会のパラダイムが変わっているなかで、そうではないのではないかなど、むしろ、一人ひとりの個性っていうと陳腐な話になってしまうのかもしれませんが、一人ひとりの強いところをしっかりと伸ばしてあげる。そして一人ひとりをもっと支えてあげる。支えてあげるのは、やはりいろんな人が支えてあげなければ私はいけないのだろうと思っています。

先週、私は失語症の皆さんと一緒に劇をやりました。私は信濃の国の殿様役をやらせていただいたのですが、失語症の方たち、例えば、脳溢血で倒れて言葉を失って、必死にリハビリされて、それで必死に台詞を覚えて、舞台に立たれて、本当にすばらしかったです。私は自分の台詞を忘れてしまいました。私が一番とちりました。むしろ他の人たちの方がすばらしい演技だったと私は思っています。私は、自分が失語症の皆さんと一緒に劇をやらせていただいて実感したのは、やはり社会っていうのは、いろんな人がいろんな個性を持って、そしてそれぞれの役を、裏方の人も含めて精一杯やっているから良い社会になっていくのだというのを強く感じました。主役級の人たちだけが良ければいいわけでは絶対ないです。台詞がない人だって一生懸命やってもらわなければ、劇全体はだめになります。決してプロの劇と比べれば、それは台詞の滑舌も段違いかもしれませんが、私は本当にすばらしい劇だったなと思っていますし、その一人のメンバーとして加えてもらったことに私は本当に嬉しかった、喜びをおぼえていますし、誇りに思っています。

学校教育も私は是非一人ひとりの個性を伸ばす、学校という枠組み、教育制度の枠組みに子どもたちをはめるのではなくて、子どもたちの伸びる方向性をみん

なでサポートしてあげる。そういう形の学校にしたい。そういう学校が長野県にもっともっと増えてほしいなと思っています。

まだ、先ほどの方がおっしゃったように、長野県の現実はその理想とはほど遠い部分があるかもしれません。だけど、県民の皆さんと一緒に方向性を見いだして、その方向で力を合わせていこうぜということを考えれば、私は絶対実現できるというふうに思っています。自分たちが頭に描けないことは、絶対に実現できません。

今日、いらっしゃっている多くの皆さん、伴さんの話を聞いて、「あれもいいけど、うちはなかなか無理だよな。」というふうに思っている方も、もしかしたらいるかもしれません。だけど伴さんのところはやったわけですよ。あれを皆さんが頭に思い描いて、うちの学校も、うちの子どもの学校も、あるいは近所の学校もこういうふうにしていきたいなと思うところから私は社会が変わることは確実にスタートするというふうに思っています。

そういう意味で、今日お集まりになった皆様方が少しでも何か心に残る部分があれば、私はとても嬉しいなというふうに思いますし、先ほど「しあわせ信州創造プラン」に県民の皆さんにいろいろ呼び掛けています。そのなかの一つでも結構ですから、自分もこういうことをやってみようというふうに思う機会に今日の場がもしなれば、私としては大変嬉しいと思っています。

これで長野県の教育行政の皆さんとの対話が終わるわけではありませんので、またこういう機会を是非作っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

#### 【教育長 伊藤学司】

以上をもちまして鼎談の部を終わりにしたいと思います。今後とも一緒に長野県の信州教育の創造に向けて、一緒に力を合わせながら、一つのベクトルに向けて、子どもを真ん中において、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。本当に本日はありがとうございました。

## 5 知事あいさつ

#### 【長野県知事 阿部守一】

冒頭に申し上げた「しあわせ信州創造プラン」は、県民の皆さんと目標を共有して一緒になって実現を目指していく計画です。この基本目標を冒頭に私、言ったのですが、皆さん覚えていますか。「確かな暮らしが営まれる美しい信州」、これが基本目標です。

是非、これは「しあわせ信州」ということを目指していきますけれども、日本総研が昨年出した本であります「都道府県別の幸福度ランキング」を日本総合研究所というところが出していますが、長野県はおかげさまで第1位です。第2位は東京都です。よくこういう指標でありがちな、何か農山村に有利な指標で家が

広いとかですね、そんなことばかりやっているから長野県がいいのではないかって言われることありますけど、2位が東京都、7位が神奈川県ですから、別にそんな指標じゃないです。そういうなかで、私たち長野県は第1位です。これは健康長寿であるということも一番効いていますが、そのほかの経済的な指標とか雇用の指標、年をとっても働いている方が一番多いのが私たち長野県ですし、もちろん生活環境は都会に比べれば良いことは、論を待ちません。だけど、そのなかで順位が分野ごとに見て低いのは、実は教育なのですよね。そこは伊藤教育長にしっかりこれから頑張ってもらいたいと思いますし、是非県民の皆さんと力を合わせてもう一回、「長野県、教育県ですね。」ということをおっしゃったときに「いや、でも、実は。」なんていうふうに県民の皆さん、私も含めて言わなくてもいい、胸を張って教育県だと言える長野県を是非皆さんと一緒に目指していきたいと思しますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

今日は、どうもありがとうございました。